



大滝屋旅館

熱交換器
ヒートポンプ

融雪

温泉
温度
48℃



ゆきぐに温泉マンゴー

熱交換器
ヒートポンプ

マンゴー栽培

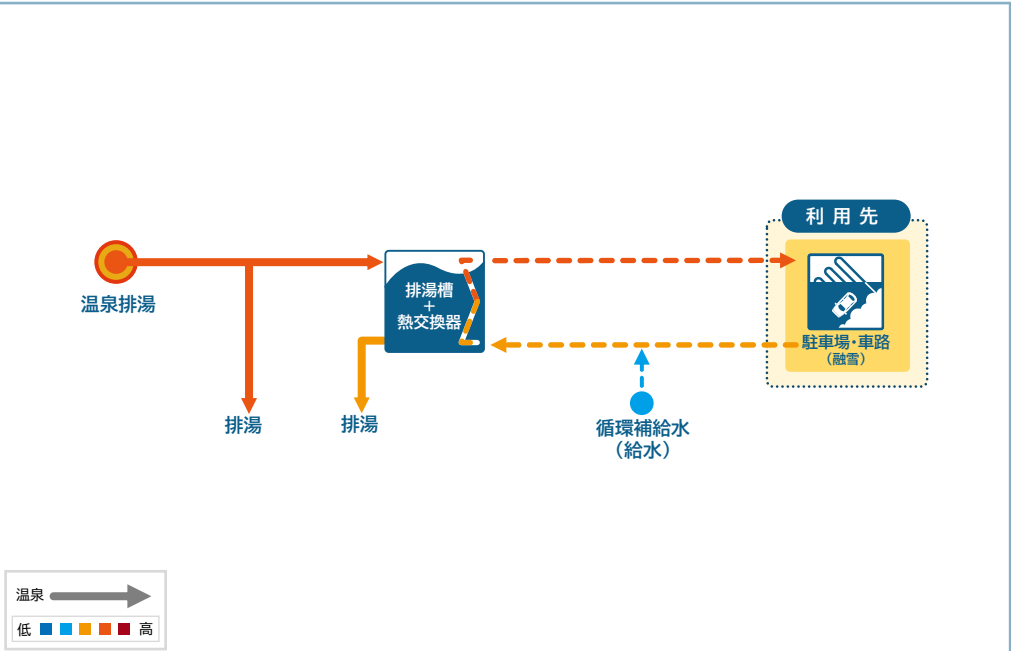
温泉
温度
64℃

概要

温泉の排湯を排湯槽に集め、排湯槽の中に設置した熱交換器で熱交換を行っている。この熱交換により温められた水を、旅館前の駐車場と道路から敷地内に入る車路部分に敷設した配管に、ポンプで循環させることで、無散水融雪を行っている。



泉質	ナトリウム・カルシウム・硫酸塩温泉	CO ₂ 排出量削減効果	エネルギーコスト削減効果
熱利用温度	排湯利用	 42 t-CO ₂ /年相当 削減 ※1	 93% 削減 ※1
利用温泉	既存温泉		
総事業費	9,800万円（補助金なし）		



主な温泉熱利用方法

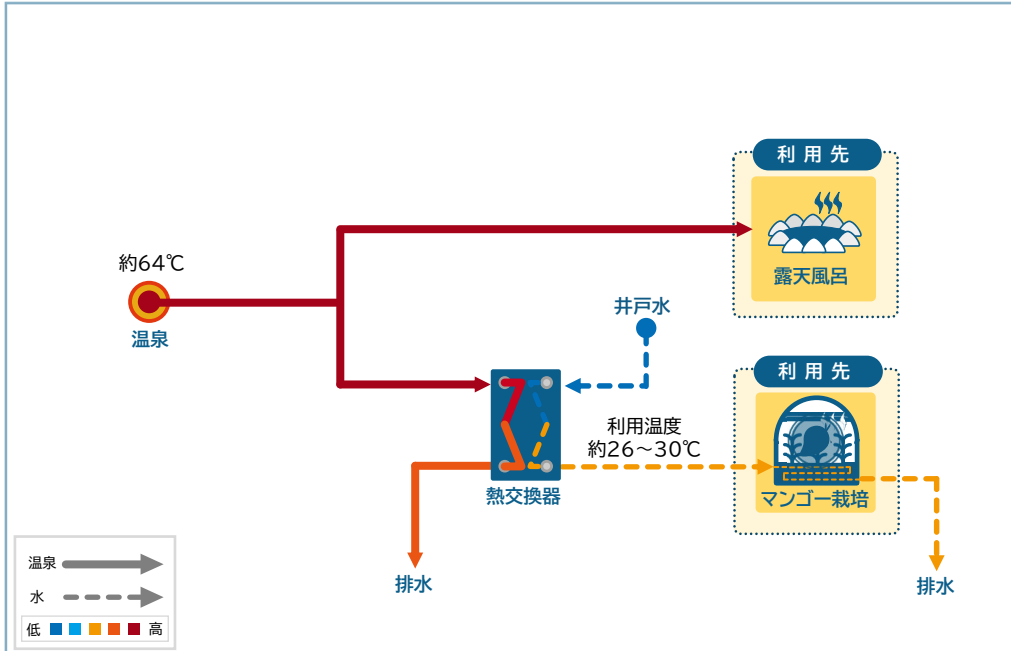
※ 本事例は「平成29年度・30年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
※ 1: CO₂排出量削減効果、エネルギーコスト削減効果は、ヒアリング結果を基に算出した推定値(重油使用量に換算した場合の効果)です。

概要

自家源泉を用い、温泉活用の一つの方法として、マンゴー栽培を行う。
地下100mほどから汲み上げる地下水を64℃の温泉で、26～30℃程度に熱交換槽にて熱交換を行い温め、ハウスに巡らせている。欠点と思われるがちな冬場の積雪による日光の乱反射もハウス内を温めるのに欠かせない要素となっている。



泉質	ナトリウム・塩化物温泉	主な効果	雇用創出や地域ブランド化によるにぎわい創出
熱利用温度	成行き温度		・ ハウス運営のための雇用創出
利用温泉	新規温泉		・ 販路拡大による商品のブランド化
総事業費	-		・ 地域の来訪者増



主な温泉熱利用方法

※ 本事例は「令和2年度温泉熱等の有効活用等普及促進調査等委託業務」にて調査・整理した事例であり、掲載情報は調査当時のものであることから、詳細な状況は変更されている可能性があります。
※ 温泉熱利用に係る事業費等が不明のため、CO₂排出量削減効果、ランニングコスト削減効果は算出しておりません。